

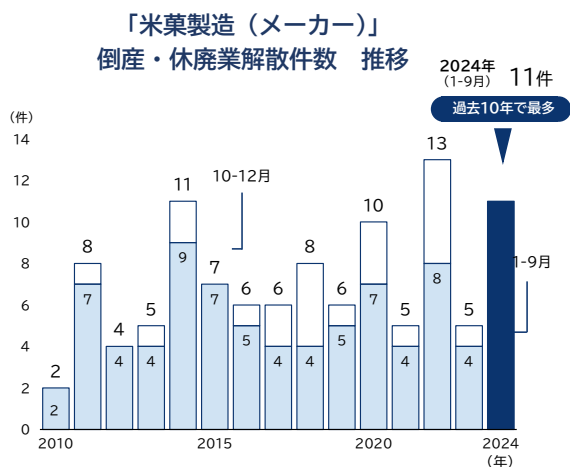
「米菓製造業」の倒産・休廃業解散動向（2024年1-9月）

「コメ不足の余波」せんべいに波及 米菓メーカーの倒産・廃業が増加 過去最多ペースで推移、消費低迷にコメ価格高騰が影響

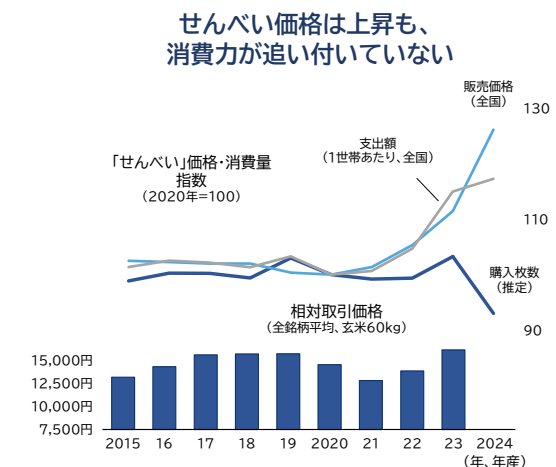
全国的なコメ不足と価格高騰の影響が、せんべいなどコメを原料とする菓子にも及んできた。コメを原料にせんべいやあられ、おかきなどを製造する米菓製造業の倒産（負債1000万円以上、法的整理）や休廃業解散は9月までに計11件発生した。2023年通年の件数（5件）を上回る増加ペースで、過去最多となる可能性がある。

米菓メーカーでは、米菓需要の低迷と原料となる国産米の価格高騰によるコストアップの狭間で厳しい経営環境が続いている。総務省の調査によれば、せんべい（100g）の小売価格は2024年平均で149円・2020年比で2割超上昇し過去10年で最高値を記録した。大手米菓メーカーを中心に、製造コストの上昇による値上げの実施が影響した。一方で、せんべいへの家計支出は2020年比17%増にとどまり、購入枚数も推計で家計当たり月2枚分（同7%）減少した。近年はお中元・お歳暮などの需要減が続いたことに加え、家計の節約志向で買い控えや他ジャンルの菓子への需要が流出するといった影響も大きかったとみられる。足元では原料となる国産米の価格高騰に加え、安価な米国産など輸入米も円安で価格が上昇、生産現場における人手不足も重なって製造コストの上昇が続いており、「値上げしなければ経営が成り立たない」状況が続いている。

今後も、原料米の価格高騰などコスト高の局面が続くとみられるものの、中小米菓メーカーでは消費量拡大の糸口がみえないなかでの単純な値上げは難しい。これまでの「硬い」食感のせんべいから、「ふんわり」とした米菓の開発でファミリー層の支持を取り込むなど、消費者のライフスタイルに合わせた商品の提供などが、今後の米菓メーカーの成否を左右する可能性がある。



【注1】「倒産」：負債1000万円以上の法的整理が対象
 【注2】「米菓製造」は、主にコメを原料とするあられ、せんべいなどの製造



【出典】総務省「家計調査(2人以上世帯)」小売物価統計調査
 農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 【注】せんべいの購入枚数は各種データを基に帝国データバンク推計。1枚あたり20gとした
 相対取引価格の推移は年産ベース。2023年産の価格指数は24年8月の数値

株式会社帝国データバンク 情報統括部長 藤井 俊

【問い合わせ先】 飯島 大介 03-5919-9343 (直通) daisuke.iijima@mail.tdb.co.jp

情報統括部: tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。